

2019年 新的一年、新しい北海道へ



一般財団法人北海道開発協会会長

内田 和 男

明けましておめでとうございます。皆様には清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、道民にとって決して忘れられないのは北海道胆振東部地震の激しい揺れと、道内全域にわたる大規模停電により発生した道民の生活・産業活動への甚大な被害ではないでしょうか。

奇しくも昨年は北海道命名150年の年にあたり、皆様それぞれに北海道の来し方行く末に思いを巡らせる機会があったと存じます。私たちは、先人達が身を削るような努力の末に築き上げた大地の上において、さらに豊かな北海道の創出に向け、歩み続ける責務があります。北海道開発協会としても、これまでの基盤の上にさらに一層の努力を重ね、北海道開発の推進に寄与しうよう、産学官民と連携しつつ地域活性化に資する調査研究、広報活動、研修会の開催など、積極的に実施していく所存です。

調査研究では、本年も「北海道の地域おこしに関する研究」を継続していきます。これまでの研究のいくつかを紹介しますと、「人口減少時代の地域政策に関する調査研究」では、2016年度から道内自治体へのアンケート調査やヒアリングを実施してまいりました。第8期の北海道総合開発計画の推進に向けては、子供から大人まで、より多くの方に地域づくりへの関心を

持ってもらう機会として「ほっかいどう学」の広報や経済分析セミナーに取り組んでいます。

「北海道のインバウンド観光に関する調査研究」では、インバウンド情報の共有サイト「北海道インバウンド・インフォ」の充実を図りながら、受け入れ態勢の整備に関わる様々な課題の解決に向けた検討を進めています。併せて、昨年度から新たにインバウンド向けに交通情報などを発信する「旅の安全情報」サイトの管理運営も一体的に進めているところです。これらの実施結果や成果については、当協会発行の本月刊広報誌「開発こうほう」に分かりやすく紹介しています。

また、本年も建設産業に携わる経営管理層及び建設技術者を対象に、研修会・講習会を継続して実施していきます。

昨年末、恒例の新語・流行語大賞に「そだねー」が選ばれました。道民の温かくおおらかな気質、主観を少し抑えた穏やかな言葉は、オリンピック平昌大会開催中からじわじわと日本人の心に染み込んできていたのではないのでしょうか。自然体で「そだねー」と言い交わせるような1日1日を大切にしつつ、平成の後を引き継ぐこの新しい年ももっと輝く北海道を創出し、皆様にとっても幸多き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。